

国立劇場蔵小川弥三郎旧蔵史料について—近代人形浄瑠璃嚙子方の附帳—  
Musical Notes for the Modern Bunraku Musician: Ogawa Yasaburo's  
Collection Owned by the National Theatre of Japan

前島 美保  
MAESHIMA Miho

本稿は、国立劇場が所蔵する小川弥三郎旧蔵資料のうち、「歌舞伎下座付帳」に分類された五十五点について考察するものである。旧蔵者小川弥三郎は明治十一年大阪市に生まれ、叔父で人形浄瑠璃の囃子の名人三代目小川浅丸に育てられた。明治二十年代には入座し、人形浄瑠璃の囃子の修業としてゆくが、明治三十年代になると上方歌舞伎に出入りし、鳴物や笛だけでなく、時には長唄まで担当していた。明治四十年代以降は再び人形浄瑠璃界に復し、昭和十年代まで勤続した。史料五十五点は、小川弥三郎のこうした上方の囃子方らしい足跡を如実に伝える史料として重要なだけでなく、文楽協会設立前の人形浄瑠璃の囃子の姿や、明治三十年代の上方歌舞伎の音楽演出を探る上でも稀少な史料と考えられる。

キーワード…近代、人形浄瑠璃、上方歌舞伎、囃子、音楽演出

国立劇場には小川弥三郎旧蔵資料三三三三四点が所蔵されている。この資料は、NHKのプロデューサーで文楽研究家として知られる高木浩志氏が昭和四十九年（一九七四）国立劇場に寄贈したもので、その内訳を同劇場の簡易目録に見ると、「筋書番付関係」一〇九二点、「写真関係」一六四三点、「道具帳下座付帳関係」三三一点、「図書関係」二六八点とある。このうち本稿で検討する史料は、「道具帳下座付帳関係」に分類されている「歌舞伎下座付帳（付小川弥三郎）」五十五点（登録番号八四三三）である。<sup>1)</sup>

本史料の存在については、かつて楽劇学会第三回大会（一九九五年六月十八日）にて、小林貢・石橋健一郎両氏が「明治期における歌舞伎陰囃子の変遷」の中で言及されたことがあるものの、詳細な調査はこれまでなされてこなかった<sup>(2)</sup>。しかし追って確認するように、本史料を考証してみると、近代の上方劇界、とりわけ上方歌舞伎の黒御簾と人形浄瑠璃の囃子の双方を眺めることができる貴重な史料群と知られる。本稿では、はじめに旧蔵者小川弥三郎の活動を先行研究に基づいておさえた

上で、本史料の内容とそこから見えてくる弥三郎の足跡を辿り、最後に本史料の特徴と位置づけについて考察する<sup>(3)</sup>。

一、小川弥三郎について——近代人形浄瑠璃の囃子の系譜

国立劇場の簡易目録に「歌舞伎下座付帳」として分類される本史料であるが、小川弥三郎の歌舞伎囃子方としての活動は従前ほとんど知られていないため、人形浄瑠璃の方に典拠を求めたい。昭和十八年（一九四三）刊『文楽名鑑』および『義太夫年表 大正篇』に拠れば、小川弥三郎（本名池田弥三郎）は、明治十一年（一八七八）八月一日大阪市に生まれた<sup>4</sup>。六歳で孤児となり、叔父で人形浄瑠璃の囃子方を勤めた三代目小川浅丸に育てられた。浅丸とは、三宅周太郎が『文楽の研究』の中で、

も一つ、忘れてならないのは文楽のおはやしである。舞台下手奥で、芝居に似て非なる下座をやる。あれが全部一人の業だ。笛、太鼓、釣鐘などなんでもかでも一人でやる。はなし家の一人芝居みた

いに一人でいろいろやるのだ。これは三代目小川浅丸なる爺さんが、黙々として多年文楽でやつてゐた。名物であつたが大正十四年二月に七十四歳で死んだ<sup>(5)</sup>。

と触れられているその人で、人形浄瑠璃の囃子は急所に入れるため、義太夫の知識が十分でないと勤まらず、「文楽中の第一の奇観」だと三宅は称賛している。続けて、「今はその一子弥三郎氏が浅丸氏死後これを受けついでゐる。氏も亦九歳の子供の時から斯道には入つた。」<sup>(6)</sup>と書いており弥三郎にも言及するが、「その一子」が実子を指すすると『義太夫年表 大正篇』に言う叔父甥の關係とはやや齟齬が出てくる。いずれにせよ、小川弥三郎は人形浄瑠璃の囃子の名人小川浅丸に育てられ、十歳前後で人形浄瑠璃の芝居に入座したことが窺われる<sup>(7)</sup>。写真1は『義太夫年表 大正篇』に掲げられた弥三郎の写真で<sup>(8)</sup>、片膝をついて右手に小鼓を打ち、左膝に大鼓、手前には能管を置いている。三代目吉田襄助師は「鼓は大鼓も小鼓も一人でやりました。『三番叟』も一人で、小さいのは肩に乗せて、大きいのは膝に置いてやっていました。」<sup>(9)</sup>と証言する。三宅周太郎も叔父の浅丸がこうした演奏スタイルであった様子を「手が五六本ある感じ」と述べているが、写真1は確かにこれらのエピソードを裏付けるものである。

さて澤井万七美氏に拠れば、人形浄瑠璃の囃子方が専属化したのは明治中頃以降で、文楽系では基本的に小川姓の囃子方が常駐し、一方の非文楽系では当初石田、富士田等の様々な姓の囃子方が見られたが、明治十八年（一八八五）頃よりこちら小川姓の者が担当したとする<sup>(10)</sup>。小川弥三郎の番付上の初出を確認すると、明治三十年（一八九八）十一月吉日非文楽系の稲荷座にて「新薄雪物語」「桜鍔恨鮫鞘」「鳴響安宅新関」（紋下が五代目竹本弥太夫、二代目豊澤團平、庵に三代目竹本大隅太夫）が出た時で、「はやし小川弥三郎」とあるのが早い<sup>(11)</sup>。ただしその約二年前から「小川弥三」と番付に見られ、後述するがおそらくこれは小川弥三郎本人と考えられる。つまり、見習い期間を経て、明治二十年代後半より本格的に非文楽系の人形浄瑠璃の囃子に携わっている



写真1 小川弥三郎  
（『義太夫年表 大正篇』より転載）

たことが推察される。

叔父浅丸が大正十四年（一九二五）二月に七十四歳で亡くなると、弥三郎は文楽座に出勤するようになったと『義太夫年表 大正篇』にある<sup>(12)</sup>。確かに番付上も大正十四年四月一日以降、継続して御霊文楽座に出演している。そして昭和十九年（一九四四）三月五日に六十六歳で歿するまで、およそ半世紀にわたって芝居に関わっていた勘定になる。番付上最後の出演記録は、昭和十九年三月一日初日四ツ橋文楽座で昼「近江源氏先陣館」「荒鷲魂」「冥途の飛脚」、夜「近頃河原の達引」「三人片輪」であった<sup>(13)</sup>。

その後の人形浄瑠璃の囃子の系譜を簡単にまとめると<sup>(14)</sup>、小川弥三郎歿後は縁故であった阪東弥三郎が引き継ぎ、因会系では中村新三郎、三和会系では芳村喜代次等の囃子方が勤めていたが、昭和三十八年（一九六三）文楽協会設立以降は、当時NHK収録の際に出入りしていた初代望月太明蔵社中が専属となり現在に至る。当代は初代の孫で、三代目太明蔵師が社中を率いている。

ところで、註9の芸談では三者とも口を揃えて、文楽協会設立の前後で囃子が変わったと話す。例えば吉田襄助師は「文楽協会ができて（中略）鳴物はそれまでと比べて派手になりました。」<sup>(15)</sup>と述べ、望月太明吉師も「昭和三十八年以前は整ったものがなくて、単に鳴っているという感じでした。」<sup>(16)</sup>と語る。つまり、実際の公演に携わる実演家にとっては、文楽協会設立前の囃子は要所要所にだけ入れるだけの簡素なものだったが、文楽協会設立後は本格的に囃子を入れるようになって変化したという共通認識があるようである。次に、小川弥三郎の当該史料を見てゆくと、それらが文楽協会設立前の附であることも念頭に置きつつ検討を進めたい<sup>(17)</sup>。

## 二、本史料の内容—そこから見える小川弥三郎の足跡—

表1は本史料五十五点の書誌をまとめたものである。国立劇場では枝番号を付し、史料一点ごと登録されている。横本状のものが五十一点と多く（大きさに二種ある。すべて附帳）、半紙本は三点で（唄本が二点、附帳が一点）、巻物も一点ある。実は史料点数は五十五だが、一点につき複数の興行を順不同に一緒に書き付ける場合が多く、また時には裏表紙から使用している例等もあって決して整然としているわけではない。弥三郎自身が書き込んだ興行年月日、座、外題等を『義太夫年表』や

『近代歌舞伎年表』と照合させ、年代順に並べ替えたものが表2である。現時点で確認された興行は百二十以上で、うち九十五公演の年代を特定することができた。以下、年代を区切りながら史料を見てゆく。

年代特定のできた最も古いものが、明治十五年（一八八四）九月御霊文楽座「絵本太閤記」「生写朝顔話」「大塔宮職鑑」（写真2）で、明治十年代が三公演ほど確認できる<sup>(18)</sup>。既述の如く、弥三郎の入座時期が明治二十年頃と目されるため、これらは何らかの必要があつて後年浅丸の附を写したのではないかと考えられるが、来歴については不詳である。明治二十五年（一八九四）秋より明治三十年（一八九九）初頭にかけて比較的継続的に附が遺されており、この頃弥三郎が本格的に人形浄瑠璃の囃子に関わり出したことが推測される。写真3は最初期の附の例で、珍しい巻物状の附である。上下段にそれぞれ順不同に附を書いており、写真3上段には明治二十六年（一八九五）二月文楽座「伊賀越」、下段は明治二十五年十月「伽羅先代萩」とある。ちなみにこの二公演の番付には「はやし小川浅丸」とあるのみで弥三郎の名はない。修業時代の附だろうか。この巻物状の附には明治二十八年十月十七日稲荷座で

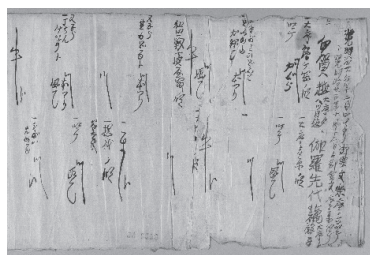


写真3 上段：明治26年2月文楽座「伊賀越」、下段：明治25年10月「伽羅先代萩」（国立劇場蔵：8433-55）

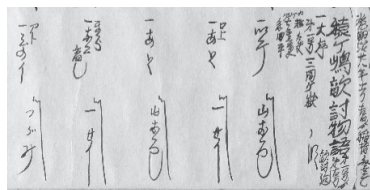


写真4 明治28年10月稲荷座「猿ヶ島敵討物語」（国立劇場蔵：8433-55）

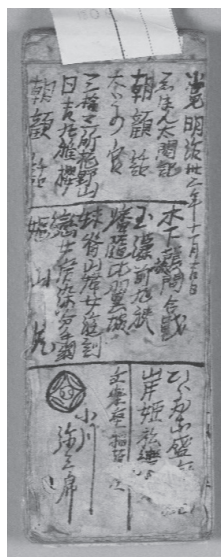


写真2 明治15年9月御霊文楽座「絵本太閤記」「生写朝顔話」「大塔宮職鑑」（国立劇場蔵：8433-13）

上演された「猿ヶ島敵討物語」がある（写真4）。これは番付に初めて「小川弥三」と書かれた時の附で、先に「小川弥三」が「小川弥三郎」のことではないかと推測した根拠の一つである。「越太夫」「七五三太夫」等、太夫名や役名を出しながら段や場面設定、キッカケを示しつつ囃子を記載するのが人形の囃子附の特徴である。この時は大序の幕が明くと「山おろし」になり、口上の後、「一声」が奏された。

この史料の最後には、明治二十八年十一月二十三日稲荷座で行われた「忠臣義士鉢植」（通称「植木屋」）の附がある（写真5）。この時は「かけ分」すなわち掛合で上演されているが、幕明後、「山また山」の唄が太鼓を入りで演奏され、その後この唄を相方で弾き流す演出だったことがわかる。その先もお高の詞「しらぬ」と言った後、下座で「しらぬしらぬ」の唄となり、そのまま相方で弾き流している。ここから窺われることは、明治中頃の人形浄瑠璃の囃子には鳴物だけでなく、時に唄を歌ったり、三味線で相方を入れたりしていたということである。もちろんこの作品の特性を考慮しなければならないが、かつての人形浄瑠璃の囃子が簡素だったという先の芸談の印象とは、いささか異なる様子が窺われる。

さて、明治三十年代に入ると人形浄瑠璃ではなく歌舞伎の附が多くなる。表2を見ると、四十公演中三十四が歌舞伎公演である。その背景には人形浄瑠璃界で二代目豊澤團平が歿し、稲荷座が解散、その後非文楽系の芝居小屋が不振であったという状況が考慮されよう<sup>(19)</sup>。そのような中で弥三郎は歌舞伎にも仕事を求めたのではないかと推測する。結果、

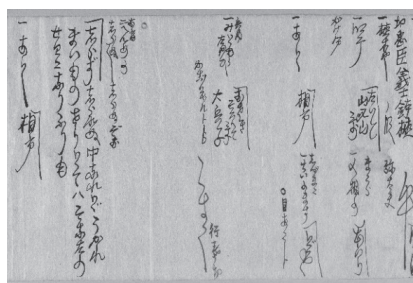


写真5 明治28年11月稲荷座「忠臣義士鉢植」（国立劇場蔵：8433-55）

一植木やノ段 へたいこ  
一明テ 山又山  
かけ分 歌  
一あと へ相方  
兵内 へおさき  
一みともら そろへて  
たかひ 歌  
かこ入ルトト  
お高  
二へんめの  
しらぬくしらぬぞお  
へしらぬしらぬ中なれどつかれまいものさ  
りとはそなたのせわになりふりも  
一あと へ相方



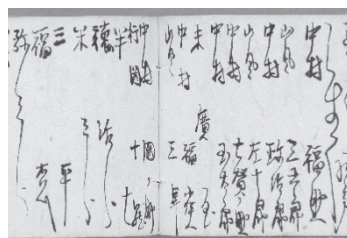


写真7 明治38年9月福井巡業  
「三十三間堂棟由来」(国立劇場蔵:  
8433-32)

半七(花房半七)  
徳治郎(長谷川徳治郎)  
米三郎  
三平  
福松  
弥三郎(小川弥三郎)

三代目片岡我当(十一代目仁左衛門)、初代市川右団治等の一座で、浪花座、角座、南座等の大芝居に出演することとなった。明治三十年代の上方歌舞伎の音楽演出を弥三郎の附から確認できるのは極めて貴重と言えよう。写真6は嵐三五郎、中村福助(三代目梅玉)一座で明治三十八年(一九〇五)九月福井巡業した時の附で、巡業用に持ち歩いていた全二七〇丁の分厚い提げ紐付き附帳である。「三十三間堂棟由来」平太郎内の段で、平太郎役の中村団ノ助が見得を切つて奥へ入ると浄瑠璃(竹本)になるが、「上るり」の下に□のような印が施されている。実は弥三郎の歌舞伎の附にはこうした独自の記号、符牒と思われる書き込みが多くある。歌舞伎の黒御簾はキツカゲが多く、細かく音楽演出を入れるため、弥三郎独自の記譜の工夫と思われるのだが、この独特の記譜の解説が今後の史料分析の課題となる。また「三十三間堂」の最後には「連中同」とあつて、写真7のような連名と知られる。中村福助始めとする巡業役者に続き囃子方も記載されており、弥三郎の歌舞伎の附の史料の

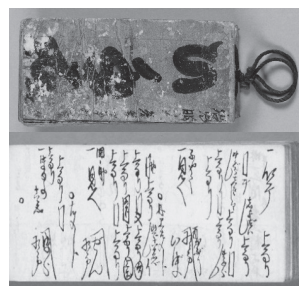


写真6 明治38年9月福井巡業  
「三十三間堂棟由来」(国立劇場蔵:  
8433-32)

団ノ助  
一見へ  
〇は入  
上るり  
相方  
方

## おわりに

以上、先行研究を踏まえ、小川弥三郎旧蔵史料を年代別に見ながら、本史料の特徴と弥三郎の足跡を併せて確認してきた。改めて年代ごとにまとめると、明治十年代が三公演、明治二十年代が二十二公演、明治三十年代が四十公演、明治四十年代が十二公演、大正が三公演、昭和が

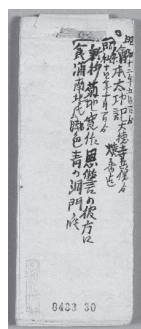


写真9 昭和14年10月四ツ橋  
文楽座「恩讐の彼方に」(国立  
劇場蔵: 8433-  
30)

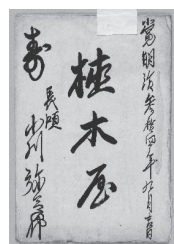


写真8 明治34年  
10月浪花座「植木屋」(国立劇場蔵:  
8433-52)

十五公演で、これら年代の特定できた九十五公演のうち、人形浄瑠璃のものが五十一、歌舞伎が四十四、その他（新派、子供芝居）が数点ということになる。弥三郎の約五十年間の芝居出勤に比して、当該史料の公演数は如何にも少ないように見えるが、むしろこれだけの變化に富んだ史料が今に遺されたことを幸甚とすべきだろう。なお表2末尾に掲げた三十三公演は現段階で他史料による考証ができていないもので、これらの詳細調査は今後の課題である。

最後に、本史料の位置づけについて触れておきたい。まず、番付等の他史料からは十分に窺い知ることのできない近代人形浄瑠璃の囃子方小川弥三郎の足跡を伝える史料として、本史料は非常に興味深いものと考えられる。また、文楽協会設立前の近代人形浄瑠璃の囃子の演出が具体的にわかる、他に類を見ない貴重な史料ということも確かであろう。さらには、数は限られるものの、明治三十年代の上方歌舞伎の音楽演出を知る手掛かりとしても稀少と思われ、中井猪三郎の附帳、坂東亀寿の唄本、杵屋富造の附帳等の近代上方歌舞伎の音楽史料との比較分析の可能性も出てくることが予想される。今後は難読記譜の解説を含めて本史料の詳細分析を進め、近代上方の音楽演出の検討に力を尽くしたい。

\* 本史料を所蔵する国立劇場には、史料の閲覧および図版の掲載許可につき特別な配慮を賜った。ここに記して深謝申し上げたい。なお本稿は、主に楽劇学会第三十回大会（令和四年八月二十七日オンライン開催）研究発表会の口頭発表の内容に基づくもので、JSPS科研費20K20677の助成を受けたものである。

## 註

- (1) なお寄贈資料の中には、本史料とは別に「歌舞伎下座付帳（付松永和二郎）九点」「新派下座付帳（付小川弥三郎）一点」「笛の符（小川弥三郎）一点」「鼓の符」一点、等の音楽関連資料がある。
- (2) 今回の史料調査にあたっては、石橋健一郎氏より御教示を賜った。
- (3) なお上方では附帳のことをキツカケ帳とも称していることが知られており（景山正隆『歌舞伎音楽の研究―国文学の視点―』、東京：新典社、一九九二年、一六七頁等）、小川弥三郎の当該史料の中にも「きツかけ帳」（登録番号八四三三―三九）や「きツかけ」（登録番号八四三三―五一）なる語も散見されるが、史料形態や弥三郎の横断的な活動範囲等を考慮し、本稿では附帳（あるいは附）の用語を用いる。また人形浄瑠璃についても、本稿で

は囃子（方）で統一する。

- (4) 文楽研究会編『文楽名鑑』、名古屋：国文堂出版部、一九四三年、三〇頁。財団法人文楽協会編『義太夫年表 大正篇』、『義太夫年表』（大正篇）刊行会、一九七〇年、索引一二〇頁。
- (5) 三宅周太郎『改修文楽の研究』、東京：春陽堂、一九四〇年、四三―四四頁。註5、四四頁。
- (6) 註4『文楽名鑑』では入座時期を明治二十年（一八八七）三月とする。
- (7) 『義太夫年表 大正篇』、一六五頁。撮影年月日等不詳。
- (8) 鎌倉恵子「人形浄瑠璃文楽の囃子―吉田襄助師、藤舎秀左久師、望月太明吉師に聞く―」（同著『浄瑠璃・歌舞伎の舞台と上演』、東京：森話社、二〇一〇年、五三三頁。『無形文化遺産研究報告』第二号、二〇〇八年初出）。
- (9) 澤井万七美「人形浄瑠璃興行における豊後系浄瑠璃・長唄・囃子」（藝能史研究会二月例会配布資料、一九九六年二月）。
- (10) 義太夫年表編纂会『義太夫年表 明治篇』、大阪：義太夫年表刊行会、一九五六年、六八五頁。
- (11) 註4『義太夫年表 大正篇』索引一二〇頁。
- (12) 義太夫年表昭和篇刊行委員会編『義太夫年表 昭和篇』第二卷、大阪：和泉書院、二〇一三年、五一九―五二二頁。
- (13) このあたりに関しては、『義太夫年表 昭和篇』第三―五巻のほか、註9に關連する芸談がある。
- (14) 註9、五三五頁。
- (15) 註9、五五八頁。
- (16) なお望月太明吉師は註9の中で、小川流の附帳の存在は知っているが、現在一切使用していないと話す（註9、五五八頁）。
- (17) 写真2の表紙には「明治卅二年十一月吉日」と見えるが、当該の興行年月日とは一致していない。
- (18) 『義太夫年表 明治篇』、三七―四一頁。
- (19) 吉田襄助師は「この人は文楽の専属で、他には行っていない。」（註9、五三三頁）と述べている。

表1 国立劇場蔵小川弥三郎旧蔵史料55点簡易書誌（登録番号：8433）

国立劇場 登録番号	国立劇場 簡易目録外題	点 数	寸法 (cm)	形状	史料 種別	丁数	備考（鉛筆書き込み等）
8433-1	阿古屋（琴責）他	1	6.3×17.4	横本	附	8	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.44」、「AKO」書き込み）
8433-2	阿古屋	1	24.4×17.0	半紙本	唄本	2	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.58」）「A」書き込み(表紙)
8433-3	朝顔日記他	1	24.8×17.0	半紙本	附	12	二穴で二ヶ所、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.37」、「ASA」書き込み）
8433-4	有馬の猫	1	8.5×24.6	横本	附	16	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.25」、「A」書き込み）
8433-5	東二條秀麿	1	8.5×24.6	横本	附	10	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.27」、「A」書き込み）
8433-6	播州血屋敷他	1	6.0×16.6	横本	附	24	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.14」、「カードスミ」書き込み）、「BAN」 （裏表紙書き込み）
8433-7	弁天お紫毒婦小説他	1	6.3×17.2	横本	附	12	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.30」、「BE」書き込み）
8433-8	忠臣義士伝他	1	6.1×16.7	横本	附	39	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.07」、「CHU」カードスミ」書き込み）
8433-9	忠臣蔵後日他	1	8.8×25.0	横本	附	14	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.24」、「CHU」書き込み）
8433-10	忠臣蔵他	1	6.4×17.2	横本	附	22	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.40」、「CHUSHU」書き込み）
8433-11	伊達真秘録	1	8.6×24.7	横本	附	11	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.43」、「DATE」書き込み）
8433-12	越後騒動他	1	6.4×16.7	横本	附	27	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.35」、「ECHI」書き込み）
8433-13	絵本太功記他	1	6.2×17.0	横本	附	52	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.06」、「EHON」カードスミ」書き込み）
8433-14	源平布引滝他	1	6.3×7.1	横本	附	8	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.11」、「GEN」書き込み）
8433-15	銀婚式他	1	8.6×25.1	横本	附	13	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「GIN」書き込み）
8433-16	花曇佐倉曙他	1	6.1×16.4	横本	附	8	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.10」、「HANA」書き込み）
8433-17	菅加藤他	1	8.6×25.1	横本	附	12	二穴、仮綴（糸）、付箋（「HOMARE」書き込み）
8433-19	本行道成寺	1	6.4×17.3	横本	附	7	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.03」、「HON」3609□□□□「カードスミ」書 き込み）
8433-20	一谷嫩軍記他	1	6.2×16.6	横本	附	12	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.02」）
8433-18	岩見武勇伝他	1	8.7×25.0	横本	附	20	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.53」、「IWAMI」□□□スミ」書き込み）
8433-21	加賀見山他	1	6.3×17.0	横本	附	19	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.32」、「KAGA」カードスミ」書き込み）
8433-22	かぎぬき（くぎぬき）他	1	8.8×25.3	横本	附	13	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.23」、「KAKINU」書き込み）
8433-23	勸進帳他	1	6.3×17.0	横本	附	14	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.10」、「KANJIN」書き込み）
8433-24	親音霊験記他	1	6.0×16.5	横本	附	16	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.12」、「KANNO」カードスミ」書き込み）
8433-25	春日局	1	6.2×16.6	横本	附	20	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.54」、「KASU」書き込み）
8433-26	復讐湖水曙他	1	8.8×25.0	横本	附	12	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「KATAKI」書き込み）
8433-27	敵討筑後曙他	1	6.2×17.0	横本	附	27	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.41」、「KATA」書き込み）
8433-28	勝女他	1	8.4×25.5	横本	附	8	二穴、仮綴（糸）、付箋（「KATU」書き込み）
8433-29	京鹿子娘道成寺他	1	6.2×16.8	横本	附	5	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.59」、「KIYO」書き込み）
8433-30	弘法大師いろは物語他	1	6.1×16.6	横本	附	27	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.15」、「KOBO」カードスミ」書き込み）
8433-31	木下藤猿聞合戦	1	6.2×16.7	横本	附	14	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.52」、「KONO」書き込み）
8433-32	寿式三番叟他	1	8.0×16.7	横本	附	270	枕本、仮綴（糸）、提げ紐付き、「KO」書き込み
8433-33	いざり勝五郎他	1	8.8×25.2	横本	附	10	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「IZARI」書き込み）
8433-34	なべ島猫だけ他	1	6.2×17.0	横本	附	16	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.9」、「NABE」書き込み）
8433-35	七ツ面	1	6.4×17.2	横本	附	4	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.52」、「NANA」書き込み）
8433-36	難波戦記実録他	1	8.7×25.2	横本	附	14	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.50」、「NANI」書き込み）
8433-37	御行の松他	1	6.3×17.2	横本	附	16	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.51」、「DNGIYO」書き込み）
8433-38	鬼奴他	1	8.6×25.0	横本	附	11	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.28」、「ONI」書き込み）
8433-39	大江山他	1	6.2×17.3	横本	附	32	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.05」、「O」書き込み）
8433-40	大阪朝日新聞小猿他	1	6.3×17.1	横本	附	16	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.34」、「OU」書き込み）
8433-41	佐野鹿蔵他	1	6.2×17.3	横本	附	20	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.45」、「SANO」書き込み）
8433-42	雪月花他	1	8.6×24.5	横本	附	13	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.22」、「SE」書き込み）
8433-43	志度寺他	1	6.2×17.0	横本	附	16	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.55」、「SIDODERA」書き込み）
8433-44	生写朝顔話他	1	6.1×16.6	横本	附	4	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.04」、「SHOU」カードスミ」書き込み）
8433-45	式三番叟他	1	6.0×16.3	横本	附	20	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.13」、「SIKI」カードスミ」書き込み）
8433-46	神堂菅原道真記他	1	8.6×24.9	横本	附	15	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.31」、「SIN」書き込み）
8433-47	曾我対面他	1	6.3×17.3	横本	附	11	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.39」、「SOGA」書き込み）
8433-48	相馬太郎義門他	1	6.2×17.4	横本	附	51	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.01」、「SOUMA」書き込み）
8433-49	菅原伝授手習鑑他	1	8.7×24.7	横本	附	14	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「SUGA」書き込み）
8433-50	菅原他	1	6.2×17.3	横本	附	19	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.29」、「SU」書き込み）
8433-51	鶯塚他	1	6.2×17.2	横本	附	20	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.26」、「U」書き込み）
8433-52	植木屋他	1	24.8×17.0	半紙本	唄本	5	二穴、仮綴（紙縫り）、付箋（「No.36」、「U」書き込み）
8433-53	淀屋辰五郎他	1	8.4×24.6	横本	附	13	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.21」、「Y」書き込み）
8433-54	吉田御殿他	1	7.0×20.3	横本	附	39	二穴、仮綴（糸）、付箋（「No.33」、「YO」書き込み）
8433-55	伊賀越他	1	17.6×不詳	巻物	附	一	「ツケ」（裏）、「IGA」の書き込み（表）

※以上のほかに紙片（4枚、附）あり

表2 国立劇場蔵小川弥三郎旧蔵史料詳細リスト (未定稿)

国立劇場 登録番号	興行年月	座	外題	主な配役(紋下、庵など)	囃子方	年表	芸能 種別
8433-13	明治15.9	御雲文楽座	前狂言 絵本太閤記 生亨朝顔話 大塔 宮陣越	竹本實太夫、吉田玉造		明治：90～91	人
8433-48	明治17.3	御雲文楽座	玉藻前旭袂 鵜山古跡松			明治：104～105下	人
8433-48	明治18.5	御雲文楽座	相馬大裏東錦画			明治：120～121上	人
8433-55	明治25.9	御雲文楽座	彦山権現誓助剱 大序より九ツ目迄 切 大塔宮陣越	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：234～235	人
8433-55	明治25.10	御雲文楽座	伽羅先代萩 大序より御殿迄	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：236～237	人
8433-55	明治25.11	御雲文楽座	太平記忠臣講釈 大序より七ツ目まで	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：238～239	人
8433-55	明治26.1	御雲文楽座	八陣守護城 大序よりハツ目まで 切 神雲矢口渡	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：240～241	人
8433-55	明治26.2	御雲文楽座	伊賀越 大序よりハツ目迄	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：242～243	人
8433-55	明治26.3	御雲文楽座	菅原伝授手習鑑 大序より四段目迄	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：244～245	人
8433-55	明治26.4	御雲文楽座	妹背山婦女庭訓 大序より入鹿退治迄	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：246～247	人
8433-55	明治26.6	御雲文楽座	基太平記白石衛 大序より七ツ目迄	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：248～249	人
8433-55	明治26.10	御雲文楽座	奥州安達原 大序より三段目迄	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：254～255	人
8433-55	明治27.1	御雲文楽座	里見八犬伝 大序より芳流閣迄	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：258～259	人
8433-55	明治27.2	御雲文楽座	金門五三桐 大序より四段目まで	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：260～261	人
8433-55	明治27.3	御雲文楽座	新雪雪物語 上下八冊 中 競伊勢物語 玉水池より春日村迄 切義経腰越伏 三 段目	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：262～263	人
8433-55	明治27.5	稲荷座	弥陀本願三信記 第一より第十三迄 切 花の上野雲石碑	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川角兵衛	明治：656～657上	人
8433-55	明治27.6	稲荷座	仮名手本忠臣蔵 大序より大切迄	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川角兵衛	明治：656～657下	人
8433-13	明治28.4	稲荷座	三拾三所花野山	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川角兵衛	明治：664～665下	人
8433-13	明治28.9	御雲文楽座	日丸権桜 朝顔話	竹本越路太夫、豊澤廣助、吉田玉造／竹本 津太夫	はやし 小川浅丸	明治：286～287上	人
8433-55	明治28.10	稲荷座	猿ヶ嶋敵討物語 第一号より第十号敵討 迄	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川弥三	明治：668～669上	人
8433-55	明治28.11	稲荷座	前 出世太平記 大序より九ツ目迄 中 増補伊賀越 伏見北国屋ノ段 切 忠臣 義士鉢桶 植木ノ段	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川弥三	明治：668～669下	人
8433-13	明治29.1	稲荷座	木下隆間合戦 大序より九ツ目まで	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川弥三	明治：670～671上	人
8433-13	明治29.2	稲荷座	玉藻前旭袂 幡随比翼塚 妹背山婦女庭 訓	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川弥三	明治：670～671下	人
8433-55	明治29.3	稲荷座	五天竺 大序より蛇退治まで 切 御所 松堀川夜討	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川弥三	明治：672～673上	人
8433-8	明治29.5	御雲文楽座	中 忠臣義士伝 次 摂州合邦辻	竹本彌太夫、豊澤蘭平／竹本大隅太夫	はやし 小川弥三	明治：674～675上	人
8433-48	明治31.6	稲荷座	前 箱根雲嶽登丸討 中 義士銘々伝 次 橋曾衛		はやし 小川弥三郎	明治：690～691上	人
8433-51	明治32.2	御雲文楽座	前狂言 長柄長者黄鳥塚 中狂言 国説 敵笠摺 切狂言 妹背山婦女庭訓	実川八百蔵、片岡土之助、伊藤右之助	(うた 阪東小栄 阪東市三郎 阪東ふさ丸 三味 杵谷六重 中村小浅 中村松之助 中村新助 笛 小 川梅治郎 小川弥三郎 なり物 小川さいご 阪東酒 伊三 稲荷ぐみ)	大阪3：395～396	歌
8433-28	明治32.3	浪花座	勝笠恋女鑑 切狂言 紙子仕立両面鑑	片岡我当、嵐徳三郎、中村芝雀		大阪3：399～401	歌
8433-53	明治32.4	浪花座	淀屋辰五郎 切狂言 殷の組紀	片岡我当、中村芝雀、嵐徳三郎、実川延三 郎	(石田弥三郎)	大阪3：405～407	歌
8433-42	明治32.5	浪花座	前狂言 雪月花 (切 阿女郎忠治)	嵐三五郎、尾上卯三郎、市川米十郎	(三味線 きねや六重 中村小浅 阪東口治郎 きね や作次郎 小川松太郎 哥 阪東市三郎 阪東豊三郎 阪東かもか 石田幸治郎 笛 石田弥三郎 小川治三 郎)	大阪3：409～410	歌
8433-51	明治32.6	京都常盤座	晋公 切 男作五郎金	片岡我当、嵐徳三郎、中村芝雀、実川延三 郎	(うた 阪東市三郎 阪東豊三郎 杵谷六重 阪東口 治郎 杵谷口治郎 小川松太郎 笛 小川弥三郎 なり 物 小川大工寅 小川治三郎 西京ぐみ)	京都3：333～335	歌
8433-22	明治32.7	浪花座	前狂言 くぎぬき 切狂言 豊臣秀吉故 郎錦	片岡我当、中村芝雀、尾上卯三郎、市川順 十郎	長唄 阪東市三郎 (三味線) 杵屋六重 (鳴物) 石田藤三郎	大阪3：420～422	歌
8433-4	明治32.10	浪花座	有馬の猫	片岡我当、尾上卯三郎、実川延三郎	(うた 阪東市三郎 阪東福三郎 石田仁三郎 三味 杵谷六重 中村松之助 中村新助 中村草太郎 なり 物 石田藤三郎 小川治三郎 笛 小川弥三郎)	大阪3：442～443	歌
8433-9	明治32.10	浪花座	前狂言 後日談 中狂言 熊谷蓮生坊 切狂言 恋飛脚大和往来	片岡我当、片岡土之助、片岡愛之助、尾上 卯三郎	(小川弥三郎)	大阪3：438～440	歌
8433-29	明治33.3	明楽座	切 鹿鹿子娘道成寺		(はやし 小川弥三郎 杵谷弥栄 小川浅丸 長唄 阪東吉太郎 阪東福三郎 阪東未丸 杵谷弥栄 三味 中村小浅 杵谷弥太郎 小川梅治郎 笛 小川浅治郎 鳴物 小川弥三郎 小川口三郎 小川藤三郎)	明治：702～703	人



8433-5	明治33.4	浪花座	東二修秀齋 八幕 切 新版歌祭文 野崎村の場	片岡我当、中村芝雀、片岡愛之助	(杵谷六重 阪東市三郎 阪東福三郎 中村小浅 杵谷作治郎 杵谷〇久 石田貴市郎 小川弥三郎)	大阪3：483	歌
8433-38	明治33.5	浪花座	鬼奴 切狂言 大藏卿	片岡我当、中村芝雀、片岡土之助	(阪東市三郎 阪東福三郎 杵谷六重 中村小浅 杵屋作治郎 杵屋〇久 石田貴市郎 小川弥三郎 笛 小川浅丸 つづみ 阪東吉太郎)	大阪3：491～493	歌
8433-7	明治33.7	浪花座	前狂言 弁天お紫毒婦小説 中の巻 法華経功力 大切 観月海浜脈	片岡我当、片岡土之助、尾上卯三郎	(阪東市三郎 玉村藤治郎 阪東福三郎 杵屋六重 中村小浅 杵屋作治郎 石田貴市郎 小川弥三郎 阪東定二郎 阪東豊〇 小川木魚)	大阪3：502～503	歌
8433-46	明治34.1	浪花座	神堂菅原道真記 中幕 近江源氏先陣館二番目 俠客春雨傘	片岡我当、中村芝雀、嵐徳三郎、中村霞仙	(長唄 阪東市三郎 阪東風呂丸 三味線 杵屋六重 小川梅治郎 中村芦丸 なり物 石田貴市郎 小川弥三郎 石田木魚)	大阪3：544～546	歌
8433-21	明治34.3	堀江座	前狂言 加賀見山旧錦絵 中狂言 重の并染分手綱 (男重の并)	中村藤蔵、尾上卯之助、嵐璃之助	(玉村藤治郎 阪東卯三郎 中村勝之助 杵谷友之助 小川弥三郎 スケ 花房半七)	大阪3：560～561	歌
8433-34	明治34.3	堀江座	前 嵯峨奥妖猫奇談 (なべ島猫だけ) 切 芦屋道満大内鑑	嵐璃之助、中村藤蔵	(玉村藤治郎 阪東卯の松 中村勝之助 杵谷友之助 小川弥三郎)	大阪3：566	歌
8433-40	明治34.8	浪花座	前狂言 小猿 切狂言 箱根雲騎聲仇討	中村霞仙、嵐蔵笑、中村芝雀	(阪東吉太郎 舟上福松 中村小浅 中村庄三郎 中村新三郎 中村草昇 石田常次郎 小川弥三郎)	大阪3：601～602	歌
8433-12	明治34.9	浪花座	前狂言 越後騒動	嵐蔵笑、中村霞仙、中村芝雀	(阪東吉太郎 舟上福松 中村小浅 阪東増治郎 中村新助 中村草昇 石田常治郎 小川弥三郎)	大阪3：604～606	歌
8433-52	明治34.10	浪花座	切 義経土伝 大詰 植木屋店先の場	尾上多見之助、嵐璃三郎、中村芝雀	(長唄 小川弥三郎)	大阪3：611～612	歌
8433-3	明治35.8	福井座	前 朝顔日記 中 先代萩 切 第五回内国博覧会 進歩魁	尾上多見之助、片岡我当、嵐蔵笑	(長唄 阪東市三郎 同 小川弥三郎 三味 阪東増治郎 中村新三郎 中村草昇 中村小浅 笛ナリ物 中村藤治郎 阪東鳳丸 小川弥三郎)	大阪3：707	歌
8433-10	明治35.11	南座	前狂言 三花夢明日職着	市川右団治、片岡我当、市川団蔵	(長唄 阪東小三郎 阪東貴太郎 阪東紋三郎 小川弥三郎 三味 中村小浅 小川梅治郎 中村信太郎 杵屋六重 ナリ物 石田貴市郎 石田常治郎 笛 中村為治郎 大坂スケ〇 つづみ 石田貴治郎)	京都4：134～136	歌
8433-49	明治35.11	角座	<子供芝居>菅原伝授手習鑑 次 蓮生坊物語 忠臣普徳利 中 観引 祇園祭礼信仰切 切 恋飛脚大和往来	秀郎、鷹童、吉十郎		大阪3：732	子供芝居
8433-47	明治35.12	南座	次狂言 吉例考會我	市川右団次、片岡我当、市川団蔵、実川正朝	(長唄 阪東小三郎 同 阪東彦太郎 同 阪東紋三郎 同 阪東孝三郎 三味 中村小浅 同 小川梅治郎 同 中村信太郎 三味 杵屋六重 なり物 石田貴市郎 同 石田常治郎 笛 中村為治郎)	京都4：134～136	歌
8433-10	明治36.1	堀江座	前狂言 仮名手本忠臣蔵 菅原伝授手習鑑 綴合九幕	嵐蔵笑、片岡我当、市川右田作	(長唄 阪東新昇 長唄 玉村藤治郎 三味 阪東小松 同 中村清太郎 同 中村豊三郎 笛 玉村亀治郎 なり物 小川弥三郎 長唄 阪東吉太郎 頭 中村小浅)	大阪4：8～9	歌
8433-27	明治36.5	堀江座	前 敵討筑後囃 切 鬼一法眼三略巻 (切 橋弁慶)	東京初下り市川新之助 姉川新四郎	(長唄 玉村藤治郎 三味線 中村松之助 阪東豊治郎 ナリ物 小川弥三郎)	大阪4：64	歌
8433-11	明治36.9	中劇場	前狂言 伊達真秘録 中狂言 双蝶々曲輪日記 切狂言 五大力志誠	中村藤治郎、嵐吉三郎、尾上卯三郎	(長唄 阪東奈加左衛門 花ぶさ半七 中村かもか 阪東小半七 三味 小川浅丸 中村小浅 阪東市三郎 なりもの 石田貴市郎 石田常治郎 笛 小川弥三郎)	大阪4：92～93	歌
8433-1	明治36.10	堀江明楽座	中 兜軍記 切 野廻仙助	嵐璃三郎、市川右若、片岡我十	(玉村藤治郎 杵屋六重 中村清太郎 小川弥三郎 頭 中村小浅)	大阪4：103	歌
8433-41	明治36.10	明楽座	前狂言 妻乞鹿浮佐野誓 中狂言 鬼一法眼三略巻 切狂言 彫刻左小刀	嵐璃三郎、市川右若、片岡我十	(玉村藤治郎 杵屋六重 杵谷正治郎 中村清太郎 小川寅吉 石田常治郎 阪東小半七 小川弥三郎 頭 中村小浅)	大阪4：107～108	歌
8433-26	明治36.11	浪花座	前狂言 復讐湖水囃 切狂言 露月夢	嵐璃三郎、片岡長太夫、市川市蔵	(長唄 中山栄治郎 阪東吉太郎 三味線 杵屋六重 小川廣蔵 笛ナリ物 中村栄治郎 小川弥三郎 小川卯三郎)	大阪4：119～121	歌
8433-33	明治36.12	浪花座	前狂言 箱根雲騎聲仇討 (いざり勝五郎) 次狂言 壺浦兜軍記 後狂言 新版歌祭文 中狂言 源平魁驍闘 切狂言 横恋雪閑扉	嵐新左衛門、市川米団次、嵐金之助、市川文団治、片岡福松	(阪東卯ノ助 中村かもか 杵屋六重 中村栄治郎 中村小浅 小川弥三郎 トキワザ 林中 三登世太夫 文字兵衛 八百八)	大阪4：129～130	歌
8433-17	明治37.3	角座	前狂言 蒼加藤 中狂言 艶容女舞衣 切狂言 粋喜提花街野晒	市川団蔵、尾上多見之助、嵐璃三郎	(長唄 阪東辰三郎 阪東豊三郎 中村定之助 三味 中村小浅 中村駒三郎 中村松太郎 ナリ物 石田貴一郎 小川弥三郎 阪東ランプ)	大阪4：159～161	歌
8433-15	明治37.4	角座	前狂言 銀婚式 中幕 日本振袖袖 切 日露交戦勝軍	市川右団治、中村福助、尾上多見之助、嵐徳三郎、実川延二郎	(唄 阪東辰之助 阪東豊三郎 中村定ノ助 三味 杵屋六重 阪東駒三郎 中村小浅 なりもの 石田貴市郎 阪東政治郎 笛 小川弥三郎 スケ 小川源二郎 いびし浅丸 阪東直治郎)	大阪4：166～167	歌
8433-36	明治37.5	角座	桐一葉 (難波戦記実録) 征露の首途 (日露実記)	片岡我当、中村勘五郎、嵐徳三郎	(長唄 阪東亀寿 中村国ノ助 中村定之助 三味線 杵屋六重 阪東駒三郎 中村黒徳 ナリもの 石田貴市郎 阪東政二郎 石田常治郎 笛 小川弥三郎 頭 中村小浅 小川浅丸)	大阪4：181～182	歌
8433-37	明治37.6	天満座	前狂言 御行松 次狂言 伏見里 中幕 藤信傳玉章 大切 観月旭風嵐	嵐徳三郎、中村芝雀、実川延二郎、市川右田作	(長唄 阪東亀寿 中村国ノ助 中村定ノ助 三味線 杵屋六重 阪東駒三郎 阪東黒徳 笛ナリ物 小川弥三郎 阪東正二郎 頭 小川浅丸)	大阪4：188～189	歌
8433-18	明治37.10	浪花座	前狂言 岩見武勇伝 中狂言 倭仮名在原系図 (蘭平物狂) 切狂言 鐘鳴今朝噂 (いろは新助)	嵐璃三郎、片岡長太夫、市川市蔵	(長唄 阪東小栄 阪東吉太郎 三味線 杵屋六重 小川廣三郎 中村栄治郎 笛ナリ物 小川弥三郎 小川卯三郎 頭 中村小浅)	大阪4：110～111	歌
8433-31	明治37.10	繁栄座	豊臣時代鑑 (木下藤扶同合戦)	橋治、飛雀、文七	(長唄 阪東廣丸 阪東三枝 三味線 阪東尾ト平 小川廣蔵 大村徳治郎 笛ナリ物 小川弥三郎)	大阪4：217	歌
8433-32	明治38.7	京都明治座	勝勝刀 二番目 いろは仮名誠義士伝 大切 盆踊都風流	市川右団治、嵐蔵笑	(長唄 阪東亀寿 中村国ノ助 阪東伊三丸 三味 中村小浅 阪東増治郎 阪東駒三郎 ナリ物 石田福松 小川新三郎 坂田信太郎 阪東治郎吉 阪東久丸 笛 小川弥三郎)	京都4：408～409	歌
8433-44	明治39.6	堀江座	前 生写朝顔話 切 紙子仕立両面鑑	座主 木津谷吉兵衛	ばやし 小川弥三郎	明治：734～735	人



8433-16	明治39.7	堀江座	前 花巻佐倉囃 中 御所坂堀川夜討 切 艶容女舞衣	座主 木津谷吉兵衛	はやし 小川弥三郎	明治：734～735	人
8433-43	明治39.11	角座	<新派劇>中幕 新さぎ娘	巽糸子、角藤定憲、山岡如萍	(長唄 阪東小栄 阪東豊三郎 阪東与一郎 三味 長谷川徳治郎 阪東三之政 阪東ため三郎 ナリ物 石田福松 小川弥三郎 阪東初三郎 田中栄治郎)	大阪4：438	新派
8433-20	明治40.5	堀江座	前 一谷嫩軍記 切 恋女房染分手編	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：740～741下	人
8433-20	明治40.6	堀江座	切 東海四ッ谷怪談	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：742～743上	人
8433-20	明治40.9	堀江座	切 奇連理の松	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：742～743下	人
8433-20	明治41.4	堀江座	切 世三間堂様由来	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：748～749下	人
8433-24	明治41.9	御雲文楽座	切 芦屋道満大内蔵	竹本摂津大掾	はやし 小川浅丸	明治：440～441	人
8433-14	明治41.10	堀江座	前 源平引渡 中 横城阿波鳴戸	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：752～753上	人
8433-35	明治41.10	中劇場	大切 セツ面	市川右団治、嵐巖笑、中村福助、市川右之 助	(長唄 阪東辰ノ助 阪東安太郎 玉村藤治郎 阪東 小滝丸 三味線 小川浅丸 中村小浅 阪東駒三郎 阪東久治郎 ナリ物 石田福松 阪東直治郎 阪田信 治郎 阪東岩治郎 小川弥三郎 笛 阪東伊三郎 小 川治郎吉 石田貴市郎)	大阪4：687～688	歌
8433-24	明治42.5	堀江座	切 双蝶々曲輪日記	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：756～757下	人
8433-24	明治42.6	堀江座	前 生写朝顔話 切 桜婿恨較輪	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：758～759上	人
8433-24	明治43.11	堀江座	中 観音霊験記 切 新版歌祭文	竹本大隅大夫	はやし 小川浅丸 小川弥三郎	明治：768～769下	人
8433-45	明治45.1	近松座	寿式三番受 大切 七福神宝の入船	竹本大隅大夫	はやし 小川弥三郎	明治：774～775下	人
8433-45	明治45.6	近松座	切 村風村雨東帯鑑	竹本大隅大夫	はやし 小川弥三郎	明治：778～779上	人
8433-6	大正6.10	京都竹豊座	切 播州皿屋敷	竹本春子太夫	はやし 小川弥三郎	大正：296～297	人
8433-2	大正12.5	西陣劇場	切 壇浦兜軍記		(小川弥三郎)	京都8：69	歌
8433-6	大正15.11	御雲文楽座	法然上人恵月影	竹本津太夫／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	大正：244～245	人
8433-6	昭和7.4	四ッ橋文楽座	切 三勇士名誉肉弾	竹本津太夫、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：325～326	人
8433-6	昭和7.7	四ッ橋文楽座	日高川入相花王	竹本津太夫／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：354～355	人
8433-6	昭和7.9	四ッ橋文楽座	新作 其幻影血桜日記 新作 名大阪二 つ名所	竹本津太夫／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：360～361	人
8433-6	昭和7.10	四ッ橋文楽座	春 さくら時雨 夏 宵庚申	竹本津太夫、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：362～364	人
8433-6	昭和8.6	四ッ橋文楽座	苅萱薬門勢繁頼 守宮瀧より高野山迄二 幕	文楽座、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：402～404	人
8433-30	昭和9.4	四ッ橋文楽座	次 弘法大師いり物語	竹本津太夫、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：456～457	人
8433-6	昭和10.3	四ッ橋文楽座	修禪寺物語 信州川中島合戦	竹本津太夫、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：510～512	人
8433-30	昭和11.6	四ッ橋文楽座	序開 三幅曲輪輪当	竹本津太夫、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：572～573	人
8433-30	昭和11.7	四ッ橋文楽座	色彩間豆	竹本津太夫／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：575～576	人
8433-30	昭和11.7	東京歌舞伎座	極彩色娘扇	(竹本津太夫、竹本大隅太夫)	はやし 小川弥三郎	昭和1：581	人
8433-30	昭和11.9	四ッ橋文楽座	東海美女伝 増補 須磨郡源平源鶴	竹本津太夫、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：586～588	人
8433-30	昭和11.11	四ッ橋文楽座	馬方丑五郎	竹本津太夫／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和1：591～592	人
8433-30	昭和12.4	四ッ橋文楽座	大楠公	竹本津太夫／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和2：24～25	人
8433-30	昭和12.5	四ッ橋文楽座	絵本太功記	竹本津太夫、鶴澤友次郎／竹本土佐太夫	はやし 小川弥三郎	昭和2：28～230	人
8433-30	昭和14.10	四ッ橋文楽座	恩雙の波方に	竹本津太夫、鶴澤友次郎	はやし 小川弥三郎	昭和2：219～222	人
8433-48	(明治12.4)	(御雲文楽座)	(鬼一法眼)				人
8433-48	(明治13.1)	(御雲文楽座)	(しん長記)				人
8433-48	(明治31.1)	(稲荷座)	(前 本朝廿四孝 切 梅の由兵衛)				人
8433-50	(明治34.4)	(伊予松山寿座)	(前 菅原 五幕 中 白石茶屋 切 松浦の太鼓／前 妹背山五幕 切 古手 屋八郎兵衛)	(中村時蔵、中村芝雀、中村高福)	(芳村林三郎 長谷川徳治郎 石田貴市郎／小川源治 郎 石田幸治郎 石田藤三郎 石田福松 石田貴市郎 阪東直治郎 住田久太郎 小川弥三郎 小川新三郎 阪東もち芳 阪東梅枝 小川口寅／阪東小栄 阪東口 丸 加賀見市 杵谷友之助)		歌
8433-54	(明治34.4)	(伊予松山寿座)	(前 吉田御殿 中 四季三番受 中 毛谷村 切 安達ヶ原三段目／前 鍋島 佐賀猫化 切 三代記／前 根上りの松 切 郎文章／前 十二時替我 切 梅川 忠兵衛)	(中村時蔵、中村芝雀、中村高福)	(小川弥三郎)		歌
8433-32	(明治35.10)	(神戸相生座)	(紫藤花 北海道近世奇談)	(伊丹屋 長太夫)	(長唄 花房半七 同 竹屋熊太郎 三味 杵屋六重 同 中村松之助 同 中村松太郎 同 中村信太郎 ナリもの 小川弥三郎 笛 小川長三郎 (218丁ウ～ 219丁オ))		歌
8433-47	(明治36.7)	(堀江座)	(大津絵所作事)		(長唄 玉村藤治郎 阪東芳三郎 三味 中村松之助 中村吉太郎 笛 □□□□ ナリもの 阪東豊之助 小川弥三郎)		歌
8433-19	(明治36.10)	(御雲文楽座)	(林源治郎作 本行達成寺)		(小川浅丸 小川弥三郎 小川徳右衛門 小川藤三 郎)		人
8433-32	(明治37.1)	(弁天座)	(吉野仇討)	(末広屋、松嶋屋)	(長唄 阪東新昇 長唄 玉村藤治郎 三味 阪東小 松 同 中村清太郎 同 中村松之助 笛 玉村亀治 郎 ナリ物 小川弥三郎 頭 中村小浅 (227丁ウ ウ))		歌
8433-25	(明治38.1)	(大黒座)	(前狂言 春日局 中狂言 目貫の五斗 切狂言 油屋与兵衛 大切狂言 日本振 袖始)	(市川右団治、中村福助)	(長唄 阪東亀寿 花ふさ半七 三味線 長谷川徳治 郎 玉村米三郎 笛ナリ物 小川弥三郎 石田福松)		歌
8433-32	(明治38.9)	(福井)	(大倉／鎌千鳥 御所役／四季三番受引 ぬき／世三間堂／三人新兵衛／小がき原 野ざき どんどう)	(嵐三五郎、中村福助)	(半七 徳治郎 米三郎 三平 福松 弥三郎)		歌
8433-43	(明治39.8)	(松島八千代座)	(志度寺 西より黒吉 日高川)				歌
8433-43	(明治39.9)	(高松)	(三番受引ぬき 貴舟引ぬき善玉悪玉)				歌

8433-43	(明治39.10)	(松島八千代座)	(連獅子)		(長明 阪東福松 三味 阪東小松 ナリ物笛 小川弥三郎)	歌
8433-6			(蝶花形名歌島台 近江源氏先陣館八つ目 勢州阿漕浦 太平素二墓 山椒大夫)			人
8433-8		(文案座、稲荷座)	(一谷嫩軍記 廓文章／白木屋／源平布引滝／源氏大和往来／夏祭浪花鑑／艶容女舞衣／お岩伊右衛門／近頃河原達引／伊賀越／石川五右衛門／世三間堂棟由来／妹背山婦女庭訓／国音駒音頭／壇浦兜軍記／加々見山田錦絵／伊勢音頭志褒刃)			人
8433-8			(博多鐵口／太平記忠臣講釈／明島六花曜／八百屋献立／宿無因七時雨傘／かみ治／八百屋／大経師音膳／和田合戦女舞鶴)			人
8433-13		(稲荷座)	(恋女房染分手綱 岸姫松譽鑑 福山姥)			人
8433-13		(文案座)	(ひらかな盛衰記)			人
8433-20			(染模様妹背門松 五天竺)			人
8433-23		(春日座)	(勘進帳 新道成寺 仕頭の松引ぬき羽衣)	(信濃屋一座)	(長明 阪本正ノ助 阪本仁三郎 三味 長谷川徳治郎)	歌
8433-24			(紙子仕立両面鑑 新作 曾我五人兄弟)			人
8433-24			(日蓮聖人御法海)			人
8433-27		(神戸柳座)	(和田合戦)	(伊丹屋 小村屋 末廣屋)	(長明 阪東房治郎 三味線 杵屋六重 中村清太郎 笛 島村富三郎 ナリ物 小川弥三郎)	歌
8433-32		(巡業 (馬淵、大牟田、久留米、広島、京都、野方、神戸、高松、丸亀、前津口、長崎、山口))	(南式三番叟引ぬきだんまり／嵐山水公伝 鬼のうで／絵本太功記 きちがい幸兵衛／河内山 菅原松王下屋敷／日本ばれ 伊賀の仇討／島千鳥 出世太平記／柳随院長兵衛 身口口／ひらかな つば坂／目ぬき五斗 弥作かま腹／白石斬吉田御殿／鬼界ヶ島 八百屋お七／菅原一の谷／小間物屋彦兵衛 シャベリ山姥／安達ヶ原 大倉／酒屋 白木屋／千本桜 菅原／隅田川 伊賀越／忠臣蔵 伽羅先代萩／野ざらし小兵衛 口出柳／隅田川 成田利生記／塩原太一代記 地震加藤／野崎村 千本桜／白石口 伊賀越／酒屋 鬼一菊畑／天一坊 三代記)	(阪東襄助、沢村源之丞一座)	(長明 小川福丸 阪東政治郎 三味 中村松之助 中村清太郎 堀井久七 ナリ物 小川弥三郎 小川卯三郎 堀井久七 西京より 長明 阪東吉太郎 小川弥三郎 三味 中村小浅 中村松之助 中村清太郎 ナリもの 小川弥三郎 石田常治郎 口村安太郎 スケ丸亀 阪東梅丸 スケ高松 清水熊太郎 (207丁ウ))	歌
8433-39		(文案座、稲荷座)	(大江山 鎌倉三代記 伊勢物語／からくりまんとふ こくせんや／桂川連理橋／けいせい恋飛脚 桑仙人吉野花王／鎌倉三代記／娘景清八島日記)			人
8433-45			(関取千両鑑 大津絵)			人
8433-45		(近松座)	(造幣の金銀踊り 千本桜連行)			音振り
8433-45			(敵討鑑樓鑑 福山姥 戻り駕)			人
8433-45			(東海道膝栗毛引拔三国同窓口糖環／菅原松王丸／小袖曾我／基盤太平記／法然上人一代記／清水清玄)			人
8433-48		(稲荷座)	(千本桜)			人
8433-48		(稲荷座)	(前 伽羅先代萩 切 傾城反魂香)			人
8433-48		(稲荷座)	(佐倉宗五郎)			人

## 凡例

- ・「年表」には、『義太夫年表』明治篇・大正篇・昭和篇、『近代歌舞伎年表』大阪篇・京都篇の別と頁数を記した。
- ・「芸能種別」には、人形浄瑠璃、歌舞伎等の別を記した。
- ・( ) は史料表記。
- ・□は判読不明の文字。